

研修 受講者氏名	
対象者氏名	

※各対象者の個別性に適合させるよう、適宜変更・修正してご使用ください。

A

本票ページ数

／

実施 手順	評 価 項 目		記入例	現場演習	実 地 研 修					
	回 数		(1)回目	()回目	(1)回目	(2)回目	(3)回目	(4)回目		
	月 日 時 間		1月12日 15:00～15:30	／	／	／	／	／		
STEP4 準備	1	訪問時、第一回目の流水と石けんによる手洗いを済ませておく。	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ		
	2	医師・訪問看護の指示を確認する。	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ		
	3	利用者本人あるいは家族に体調を聞く。	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ		
STEP5 実施	4	利用者本人から吸引の依頼を受ける。あるいは、利用者の意思を確認する。	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ		
	5	吸引の環境、利用者の姿勢を整える。	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ		
	6	口の周囲、口腔内を観察する。	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ		
	7	流水と石けんで手洗い、あるいは速乾性擦式手指消毒剤で手洗いをする。	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ		
	8	必要に応じきれいな使い捨て手袋をする。場合によってはセッシンを持つ。	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ		
	9	吸引カテーテルを不潔にならないように取り出す。	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ		
	10	吸引カテーテルを吸引器に連結した接続管につなげる。	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ		
	11	(薬液浸漬法の場合) 吸引器のスイッチを入れ、水を吸って吸引カテーテルの内部を洗い流すとともに吸引カテーテルの周囲を洗う。	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ		
	12	決められた吸引圧になっていることを確認する。	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ		
	13	吸引カテーテルの先端の水をよく切る。	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ		
	14	「吸引しますよ～」と声をかける。	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ		
	15	口鼻マスクをはす。	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ		
	16	吸引カテーテルを口腔内に入れ、両頬の内側、舌の上下周囲を吸引する。	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ		
	17	口鼻マスクを適切にもとの位置にもどす。	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ		
	18	一回で吸引しきれなかった場合は、吸引カテーテルの外側をアルコール綿で拭き取った後、洗浄水を吸って内側を洗い流してから、再度吸引する。	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ		
	19	(薬液浸漬法の場合) 使用済み吸引カテーテルは外側をアルコール綿で拭き取った後、水を吸って内側を洗い流してから、保存容器の消毒液を吸引カテーテル内に吸引する。	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ		
	20	吸引器のスイッチを切る。	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ		
	21	吸引カテーテルを連結管からはずし、破棄する。 (薬液浸漬法の場合) 消毒液の入った保存容器にもどす。	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ		
	22	手袋をはす(手袋着用の場合)またはセッシンをもとに戻し、手洗いをする。	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ		
	23	利用者に吸引が終わったことを告げ、確認できる場合、たんがとれたかを確認する。	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ		
	24	利用者の顔色、呼吸状態等を観察する。	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ		
	25	人工呼吸器が正常に作動していること、口鼻マスクの装着がいつも通りであることを確認する。	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ		
	26	体位を整える	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ		
	27	吸引した物の量、性状等について、ふり返り確認する。	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ		
STEP6 結果確認 報告	28	吸引びんの廃液量が70～80%になる前に廃液を捨てる。	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ		
	29	洗浄用の水や保存容器の消毒液の残りが少なければ取り換える。	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ		
STEP7 記録 報告	30	実施記録を書く。 ヒヤリ・ハットがあれば、業務の後に記録する。	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ		
アの個数 計			30							
評価者(指導看護師)サイン			大阪							

* 自由記載欄

()回目	
()回目	
()回目	
()回目	

※【現場演習】は全項目が『ア』になるまで、一連の流れを確認してください

※【実地研修】は2回連続で、全項目が『ア』にならないと修了となりませんので、ご注意ください。